

ナノテクノロジー・イノベーション・ネットワーク 拠点形成プログラム

平成19年度概算要求額:4,000百万円
(新規)

背景・必要性

- ◆第3期科学技術基本計画における「**イノベーション**」「**分野融合**」の要請に応えるため、**共用拠点を形成することが必要**
- ◆**ナノテクノロジー・材料分野**は、ライフサイエンス、情報通信分野等を横断的に支える技術分野であり、**重点的に支援を行うことが必要**
- ◆「ナノテクノロジー総合支援プロジェクト」(平14~18)により、利用者の着想と支援機関の高度なノウハウの融合により成果を創出
(例)LEDの輝度を上げるための半導体の表面構造を開発 等
- ◆利用者アンケートでも**9割以上がプロジェクトの有効性を評価**
- ◆米国NNIN(国家ナノテクノロジーインフラネットワーク)をはじめ、欧州や韓国など**世界でナノ融合拠点の整備が進む中、国際競争力確保の観点からも早急な対応が必要**

- ・最先端のナノテクノロジー研究環境を産学官の幅広い研究者に提供
- ・「ナノテク支援プロジェクト」による支援の経験の蓄積を活かしつつ、イノベーションの促進・分野融合の実現へ支援を展開

プロジェクトの概要

大学・独法等が所有する、ナノテクノロジーの機能・目的(創る、加工する、測るプロセス)に沿って整備・集約配置された先端研究機器群を基に、ナノテクノロジー拠点構想を形成

- ・高性能電子顕微鏡群
- ・極微細加工施設
- ・分子・物質合成、解析機器群 等

- ・支援領域
- ・利用可能な機器、ワークタイム
- ・支援人員
- ・人材育成プログラム等の提案

I. 先端ナノステーション型

高性能電子顕微鏡や極微細加工施設など、大学等に既に整備されている最先端のナノテクノロジー研究のための施設・整備を活用することにより、**オープンアクセス型の拠点を形成**

- ・支援に関する施設の運営費を措置
- ・高度研究支援機能の提供(特色あるナノ先端計測・加工機器の開発・共用)

II. ナノ融合センター型

従来の共用施設では対応困難な、**イノベーションに向けた研究、融合研究を可能とする研究拠点を整備**

- ・施設利用・技術支援をサポートする支援人員を配置
- ・各支援機関間をコーディネート、サポートするオフィスを設置